

# 宇和島の埋め立て今昔

1年2組 揚村 七海 1年3組 毛利 菜々 1年4組 矢野 佐恵  
指導者 井上 真介・山下 佳世・西川いず美・小山 尊浩

## 1 課題設定の理由

宇和島市には埋め立て地が多いとよく聞いてきた。しかし実際にはどれくらいの土地が埋め立て地なのか。また、どのように埋め立てられてきたのか。私たちは、宇和島の歴史を遡り、過去に埋め立てられていた土地を調べ、同時に今後どのように進んでいくのか調査したいと考え、この課題を設定した。

## 2 埋め立てとは

土砂を海域に投入し陸地化して有効な土地を造成することをいう。日本ではとくに高度成長期に、工業化を背景に海岸線では数多くの埋め立てが行われた。埋め立て・干拓による造成面積は、国土面積の約 0.5%に達する。投入する土砂は、一般的に海底土砂や、陸上で採取する山砂が使われる。さらに建設工事で発生する残土や廃棄物なども有効利用されてきた。

## 3 仮説

宇和島市の埋め立て地は年々増加しており、その原因は人口増加であると考えられる。

## 4 調査方法

- (1) 学校の図書室や市立図書館で宇和島市の埋め立てや歴史についての文献を調べ、それぞれの文献の情報をまとめる。
- (2) (1)でまとめた情報と宇和島市の人口流動や、産業、世帯数の情報とを照らし合わせ、埋め立てとの関連を調べる。
- (3) 現在埋め立てが進んでいる大浦甲に位置に行き、実際の様子を見る。

## 5 結果と考察

### (1) 埋立地と人口変化の関係

旧宇和島市の埋め立て地を大まかな色で分けた。(図1参照)

図1より、旧宇和島市の大部分は埋め立て地であることが分かる

埋め立て地の増加は人口増加が主な原因かと考えていたが数値的には減少しており、世帯数が増加していた。(表1参照)このことから、埋め立て地増加の主な原因は核家族の増加などにより一世帯あたりに住む人の人数が減ったことだと考えられる。また、宇和島市の地価は県内5位と高値である。

これより住宅地の不足と土地代の高額化も埋め立て地増加の一因だと考えられるが、南海トラフ地震が心配される現在では、今後埋め立て地を住宅地として活用していく可能性は低いと予想される。

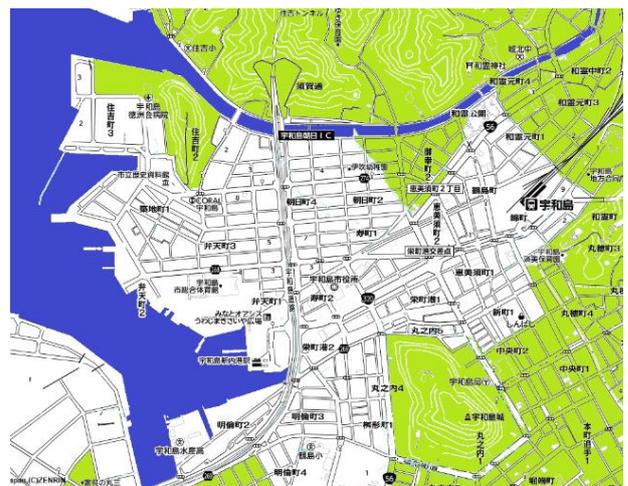


図1 旧宇和島市沿岸部の埋立地分布図

図中 黒：現在の海  
白：埋立地  
灰：元々の陸地

表1 宇和島市の人口変化（愛媛県統計年鑑より）

|      | 昭和20～30年 | 平成17年     |
|------|----------|-----------|
| 陸地面積 | 82. 83km | 143. 36km |
| 人口   | 66155人   | 59228人    |
| 世帯数  | 14775世帯  | 24361世帯   |
| 農業   | 4079     | 1499      |
| 水産業  | 676      | 2574      |
| 建設業  | 2431     | 2795      |

(2) 現地調査

実際に現在埋め立てが進む大浦へ行き特徴などがどうか調べた。

- ・ 海側にとっても直線的に整備された道路があった。
- ・ 埋め立て地のほとんどに砂利が敷き詰められていた。
- ・ 地域の人の話により市場が大浦に移って行くという話を聞いた。
- ・ 広く平たい土地となっていた。

(3) その他

第二次世界大戦中も埋め立ては続けられており、戦後も空襲などによってできた瓦礫も埋め立てに使われたという資料があった。



写真1 大浦海岸の埋立地の様子

6 まとめと今後の課題

宇和島市はやはり埋め立て地が年々増えていたことが分かった。聞いていたよりも埋め立て地の面積が広がった。初め、人口増加が背景にあると考えたが、むしろ人口は減少しており、世帯数の大幅な増加が見受けられた。この結果から、主な原因は核家族化の進行であると私たちは考えた。しかし今後新しい埋立地を住宅地として利用するには様々な対策が必要である。埋め立て地の利点は広く平たい土地であるため多目的利用が可能である点だ。大きなイベント会場や市民の共有スペースにするのに適しているのではないだろうか。

今回の研究で、現在に至るまでの宇和島市の埋め立て地について理解が深まった。今後の宇和島市の在り方を考える上で、埋め立て地の活用は大きな役割を担っている。地域を活性化するための利用に有効につなげていくことが理想的だ。

参考文献

- ・ 『愛媛県の地域調査報告集(二)』愛媛県高等学校教育研究会社会部会地理部門 代表者篠原重則
- ・ 『愛媛県統計年鑑』愛媛県統計協会